

学生の共著論文が国際的ジャーナルに掲載されました!

ジャーナル掲載

本学学生がリサーチ・クラークシップの研修期間中に携わった共著論文が、国際的に著名なジャーナルに掲載されました。ご指導を賜りました鎌田信彦先生（ミシガン大学）ならびに柴田岳彦先生（東京医科大学）、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

① Cell

The Intermucosal Connection between the Mouth and Gut in Commensal Pathobiont-Driven Colitis

2020年6月16日 オンライン掲載 [https://www.cell.com/cell/fulltext/S0092-8674\(20\)30681-4](https://www.cell.com/cell/fulltext/S0092-8674(20)30681-4)

三好真緒さん（医学科5年）

② Nature Microbiology

Dietary L-serine Confers a Competitive Fitness Advantage to Enterobacteriaceae in the Inflamed Gut

第5巻 第1号 116頁～125頁 2020年1月発行

三好真緒さん（医学科5年）、西岡 樹さん（医学科4年）

③ The Journal of Clinical Investigation

Respiratory Syncytial Virus Infection Exacerbates Pneumococcal Pneumonia via Gas6/Axl-mediated Macrophage Polarization

第130巻 第6号 3021頁～3037頁 2020年6月1日発行

緒方瑠衣子さん（医学科6年）

ミシガン大学

ジャーナルに掲載されて

医学科5年 三好 真緒

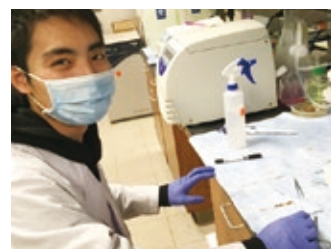
2018年早春、私はリサーチ・クラークシップを通して、世界的にトップクラスのミシガン大学の研究室に籍を置く機会に恵まれました。短期間とはいえ、医学研究の奥深さや楽しさを垣間見られたことは、その後の私の医学に取り組む姿勢を大きく変えてくれたように思います。また、その間に育んだ様々な国籍の人たちとの親交は、かけがえのない宝物となりました。この度、私も携わらせて頂いた研究が Cell 誌、Nature Microbiology 誌に掲載され、非常に光栄に思います。この栄誉を将来に繋げるべく、医学研究に対する興味を持ち続け、日々精進したいと思います。鎌田先生をはじめご指導下さいました皆様方に、改めて感謝申し上げます。



研究室にて

医学科4年 西岡 樹

実習初日の帰りに逆方向のバスに乗ってしまい、泣きそうになりながら真っ暗な道を一人で歩くなどトラブルもたくさんありましたが、ミシガン大学でのリサーチ・クラークシップは本当に素晴らしいものでした。普段の生活とは違い研究のことだけに集中して生活できるので、大学では決して経験できないことがたくさんありました。今回、Nature Microbiology という素晴らしい雑誌への論文投稿に際して、共著者にしていただいたことは大変嬉しいですし、ミシガン大学でお世話になった鎌田ラボの先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ミシガン大学での経験を糧にし、次は自分が first author になって論文投稿できるように免疫学教室での研究に励みたいと思います。



鎌田ラボの実験室にて

MESSAGE (指導教官から)

ミシガン大学医学部消化器内科 助教 (9月～准教授に就任)

鎌田 信彦

私がミシガン大学医学部消化器内科に主催する研究室に、これまで大岡和嵩君、三好真緒さん、西岡樹君の3名が海外クラークシップにより短期留学してくれました。慣れない海外生活やミシガンの厳しい冬に戸惑うこともあったと思いますが、皆高いモチベーションを持って医学研究に取り組んでくれました。3名が携わった研究は科学論文として一流科学誌である『Nature Microbiology』や『Cell』などに掲載、または投稿準備中です。クラークシップの経験を経て、学生さん達が研究マインドを持った臨床医として世界を股にかけて活躍する未来を楽しみにしています。

